

今月の 我がマチの 一番星☆



食と遊びの国際交流会
(2/22 追分公民館)



ショーン・オライリーさん

元気な子どもたちや町民の皆さんと親交を深めたい

昨年4月から町内のALITとして赴任したオーストラリア・シドニー出身のショーン・オライリーさん。2006(平成18)年に来日しました。

一年中暑くて乾燥しているオーストラリアと違い、四季の彩りが美しい北海道の魅力を満喫しているそうです。

安平町に住み、町内の各学校で児童・生徒に英語を教え、また町民を対象にした英会話教室の講師もしています。

「受講者の人たちは友好的で家庭的な雰囲気ですね」と喜んでいきます。

「語学教育は少人数の方が教える側も教えられる側も勉強になります」と言い、知らない単語はその場で電子辞書を出して調べていました。

外国語としてはアイルラン

長期的な展望に立ったチーム作りを



福村孝光さん

「アイスホッケーの経験はありませんでした」と話す福村孝光さん(早来大町)は16年ほど前に屋外リンクで教えたのがきっかけで同好会を立ち上げ、その後、早来ギャロップの監督として小学生を指導。今年1月に安平ギャロップと名前を変えました。「アイスホッケーを通して子どもの意識が変化しました」と連帯感の高まりを強調。上級生が下の者の面倒をみるようになり、「試合や練習の中から相手を気遣う気持ちが芽生えてきたのかもしれない」と団体スポーツのメリットを話します。福村さんは試合前に選手一人ひとりに目標を立てさせ、試合後に達成状況をほめたり、励ますことを続けてきました。「チームづくりは長い時間が必要です。長期的な展望に立った取り組みが大切だと考えています」とチームの発展を目指しています。

また、「保護者や地域の人に支えられてきました」と語り、毎週試合が行われ、地元開催の大会では準備や運営まで多くの人の協力に感謝。福村さんは今季最後の大会を楽しみにしています。出場年齢が小学3年生以下のミクニカップABIRAキッズ大会(3月27日せいこドーム)で今のチームは優勝できる実力を持っているからです。



監督席で指示する福村さん(右端)
平成19年3月撮影

福村さんには2つの夢があり、ひとつは、遠浅と富岡の小学校の子が中心の現在の状況に他の学校の子も入ったチームづくり。2つ目は、実業団でプレーできる選手の育成です。早来出身で大学で活躍している選手もいます。高い理想を持ってベンチで指揮を執っていました。

ド語やスペイン語が出来ますが「漢字は難しい」とのことです。事前に日本の料理や習慣を学んでいたショーンさんでしたが、靴を脱いだり、履き替えることには驚いたようです。また、大量に使われる包装紙には「もったいない」との思

いもあるようです。趣味は登山、カヤック(カヌーと似たボート)、野菜作りなど。昨年の夏にカヤックで、天売・焼尻島に行きました。週に数回ジム通い。とにかく体を鍛えたり動かすことが大好きなショーンさんは、こちらへ来てからカンジキを着け

て雪原を歩く体験を初めてしました。「見知らぬ国に来て、気さくに声をかけてくれる児童や生徒、町民の方々には感謝しています」と今後もいろいろな人との出会いも楽しみにしながら笑顔で話してくれました。